

路上から蹴れ〜 第16次越冬越冬雑感

笠井和明

またもや冬が来て、またもや年越しがあり、そしてやがて春が来る。

同じ事の繰り返しなのであるが、路上にとってはそれが宿命のようなものでもある。

今年も最近の例に漏れず12月、1月期はさほど寒くはならず、この2月期によりややく東京で雪が積もるなど、冬の景色は変わりつつある。そのおかげもあり、年末年始期は極めて楽な気候であり、当事者はもちろん、支援する我々も大分楽をさせてもらった。

路上の冬景色が変わるのは良い事なのではあるが、まあ、変わったのは気候だけで、あとはさほど変わっていないのが何ともはやである。

冬が一番楽な時期に支援の手は厚くなり、最も厳しい時期には支援の手は薄くなり、これもまた困ったものなのであるが、結局は自分の都合に支援の形態を任せてしまう私たちの身勝手な振る舞いでもある。

長い事、こんな事をやっていたいながらも、最近

「支援」とは何かと云う事をついつい考えてしまう。

「支援」を「する」側と「される」側の溝が何だか年々広まっていると云うか、深まっていると云うか、どうも何だかそこら辺が違って来たような気もするのである。

ためしに私たちの炊き出しでも良いから、見学にでも来られたら勘の鋭い方は分かるかも知れない。「する側」は「する側」で固まり、「される側」は「される側」で固まりと、そこをつなぐ線がどうもどこかへ行ってしまったかのような感があるのである。

私たちのような当事者運動を標榜している団体なら、その観点は常に注意しているのであるが、そうでない団体は、当事者などは「お客さん」であり、「救済の対象」でしかないようである。

最近の風潮を見れば、これは無理からぬ事のようにではあるが、「支援依存症」のような主体をこれだけ無意識に作って、一体これからどうするんだいとも言いたくもなる。

「私たちが善かれと思う事が、決して当人達に善かれとは限らない」

これは、私たちが長い歴史の中で路上から学んだ事でもある。だからこそ、ニーズに即した多様な支援が必要であると、あちこちで言い続けて来たし、また、「支援」とは、サッカーで言えば「アシスト」、ボクシングで言えば「丹下のおっさん」であるべきで、決して自分が主人公になったり、自分でボールを蹴ったりしちゃ駄目なのだとも言いつけて来たのであるが、そこんこの理解が足りない人々が、社会の認知を得たとばかりに、はしゃぎ回っている姿を見るたびに心が痛むのである。



役所もまた同様であるのであるが、その役所を批判する人々もまた同類と来た日には、一体私たちはこれまで何をやって来たのであろうかと、悶々とするのである。

もちろん、批判勢力と云うものは必要なのであるが、それを健全なものするには自分達でやってしまうのが改善のための早道でもある。自分達で出来もしないものを、あたかも鬼の首を取ったかのよう、評論家然としている人々が何と多い事か。

一人一人の自立のためのアシストすら真面目にやろうともせず、制度政策を遊びながら一喜一憂するのは学者や評論家のやる事で、私たちの仕事ではない筈である。

私たちは常に頭を下げ続けて来た。時には下げたくもない相手にさえ。活動家の変なプライドなどとうに捨て、ある意味、実務屋に徹して来た。連絡会は仲間の組織だからこそ、それはいとも簡単に出来た。それは、単に自然発生性に拝跪するのではなく、意識を持ったアシストに徹したからこそ可能であった。

私たちのこのスタイルは、「すぐに」「早急に」と云う最近の風潮でもある「焦りの雰囲気」にはマッチングしていない。

そこに、おそらく齟齬があるのであろう。

98年の西口火災事故以降、その総括過程の中で制度政策要求と云うものを運動の大きな柱にしながらも、その部分が肥大化しすぎ、そこにしか目が行かない人々を作り出してしまった事を、率直に反省する時期に来ているのかも知れない。

「路上からの脱却」なんて言葉にしても、どこか一人歩きをしてしまった。よく私たちは「そんな事云うのなら、自分の家で世話すりゃいいじゃねえか」と街の人々に言われたが、それは真実でもある。私たちはそれだけの力が当時なかったから、行政施策

に頼らざるを得なかっただけである。他人の人生を自分で背負いきれないからと言って、公共の場に押し付けるのが果たして責任あるアシストなのか？その事からもう一遍捉え治す必要があるのだろう。

人の幸せと云うものは多種多様である。多種多様であるならば、行政の宿命たる硬直な施策では全ては対応は不可能である。その一部を補完して満足するのではなく、その全部を民間が引き受けたって良いのではないのか？そう云う自律的な団体に私たちは発展しなければならないのではないのか？

まあ、難しい話になってしまったが、「何かをやりたい」、「何かの役に立ちたい」と思う人々が増えているのは事実のようである。

そう云う人々も今期の越年には多く現場に来られた。それだけがマスコミ報道の功罪の「功」の部分かも知れない。けれども、その先はマスコミも学者も評論家も示してはくれない。自身の経験で自分で考えて行くしかない。「連絡会」と言うボールが自分の目の前に転がって来た。それをどこへどう蹴るのかは自由である。何度蹴ってもいいし、そのボールを別の人に回してもいい。そして、いつか自分で「支援」と云う名のボールを手にしたら、そのボールを誰に、どのようなタイミングで、どの方向で、ゴール前に転がすのかを考えてもらいたい。最初は誰でも面倒臭いから自分で決めたくないのである。アシストすべき相手が弱ければ尚更である。けれどもそれをしちゃう駄目なのが、この世界なのである。

ボールの蹴り方はマニュアルでは学べない。この領域を知りたいければ実際に蹴って見る事である。そしてそこで初めて「役に立つ」ことが出来るのかも知れない。まあ、なかなか他人の人生にまで踏み込んで背負い込もうとするのはスマートな仕事ではない。制度政策のせいにして、それを論じていた方がよほど格好は良いのかも知れない。だけれども、路上に居れば、自然と背中に重みを感じてしまうものであり、なかなかそれを振り切れないものである。そんな泥臭い事を嫌い、自分の都合だけを押し付けようとする支援者は仲間によって自然に淘汰されるものである。

もちろん、役の立ち方はいろいろあるので一方的に決めつける事もないのかも知れないが、単に喜ばれただけならば炊き出し配るのも立派な行為である。それが何かしらの導入口となったのなら、それはそれで意味のある行為だったのだろう。

いずれにせよ、越年の取組みは当事者が主人公になれる数少ない場所でもある。



よく、「越年はデモンストレーション」と言うのであるが、単に飯を配って、相談会をやってなら組織力と資金のある団体ならどこでも出来る。けれども「こうして生きていけるんだ」と言える場、当事者が生き生きとして働き、集う場所を作る事はなかなか難しい。

しかしながら、当事者が率先して動き出す事によってその困難さはある程度克服できる。それも一人のリーダーの力ではなく、複数の人々の勝手気ままなリーダーシップによって、なんとなくまとまってしまうのが新宿越年の特色と言えば特色である。

こう云うなかなか言葉では現し切れない雰囲気は当事者団体でなければ味わえないであろう。

越年の原点から云えば山谷の越年対策など、当事者を「お客さん」にして来た行政の施設収容主義に対する具体的な抵抗の形が寄せ場の越年であり、その影響を色濃く受け継いでいる新宿もまたそれを踏襲していると云うべきであろう。すなわち、俺たちの力で仲間を守り、そして自由に、生き生きと生きていこうとする仲間へのメッセージでもある。

こう云う形態は泥臭いものであり、最近の風潮からすれば敬遠されがちであるが、何から何まで勝手なルールに縛られ、管理されてしまう不自由な社会への、民衆サイドからするレジスタンスとも言えない。

けれども、そんな野暮な事は主張はしない。言葉ではなく、雰囲気で、そして、身体で覚えてもらいたいのなのである。「何も出来ない」「救済の対象」としか思われていない路上の仲間でも、力を合わせさえすれば、いろんな事が出来るし、仲間を思いやる気持ちだけは世界一である事を。

そんな越年も16回目となり、今期もまた同じような雰囲気ですぐ発止の日々であったが、それもまたそれで楽しく、気候も穏やかで、重病人も少なく、けれども炊き出しにはわっと人が集まる日々が続く、あっと云う間に過ぎ去ってしまった8日間であった。仲間が率先して動いている限り、この雰囲気は変わらないであろうし、逆に仲間がお客さんにしかならないのであれば、恐らく、やる意味もないであろう。

この恒例の行事で仲間がちょっとでも元気になれば良いと思っていたが、毎年楽しみにしてくれる古くからの仲間も大勢来てくれ、まずはそこその成果はあったようである。

現場ボランティア以外にも、資金面、物資面で今年も多くの協力があり、感謝感激です。いつもお金

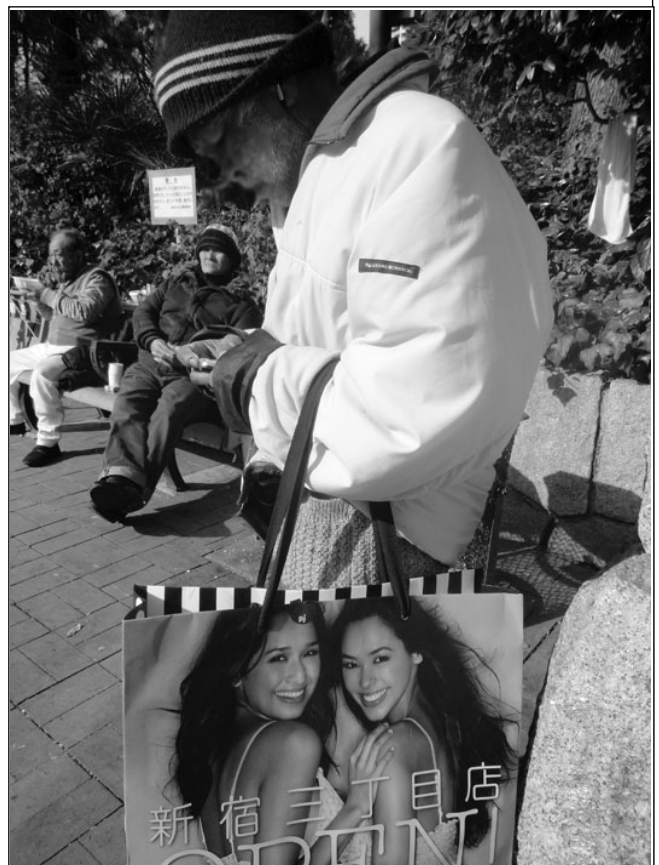
がなく、物もないのが私たちの取り柄ですが、それを上手にアシストして頂いた方々にこの場をお借りしてお礼申し上げます。

越年以降は相も変わらずの日常活動の連続であるが、気候も越年と比べるとぐんと下がり、1月の末には戸山公園で一人の仲間が亡くなるなど、いつもの冬に戻ってしまうのが、これまた宿命とも云える事態なのか…。2月に入ってから連続した小雪まじりの天候の中では今のところ大事には至っていないようであるが、引き続き、健康管理などの面では注意を払い続け、どうかこうにか最後の冬を乗り越えるべく奮闘を続けています。

まあ、早く春になって仲間や私たちの緊張感も溶け、ほっとする日々が続く事を深く祈りたいものである。

(了)

＊ちなみに毎週日曜日の炊き出しは、12年間使い続けて来たおなじみの新宿中央公園ポケットパークから離れ、3月から、越年や夏祭りの会場である中央公園「水の広場」に移ります。



今回の越年も、パトロール班としては「一日に全部のコースを回る」という形ではなく、スタッフの疲労も考慮しながら「全日程を通して全域をカバーする」スケジュールを組みました。

越年初日の12月27日（日）のみ、通常時と同じ3班体制を組みましたが、28日（月）の年内最後の福祉行動をはさんで、29日（月）以降は2班体制にとどめました。また、通常、22時半からおこなっている第二次パトロール（2本の地下通路を経て、西口地下広場交番裏に至る）も少し時間をずらしておこない、遅い時間になって新宿駅周辺に集まってくる仲間へ声かけをおこないました。また、人数の集計はおこなっていませんが、第二次パトロールの後には周辺地域への深夜のパトロールも実施しました。

例年、越年期間中は飯場などから出てきた仲間が新宿に集まり、駅周辺を中心に日に日に人数が増えていく傾向にあります。しかし、今回は東京都が年末年始の生活相談としてオリンピックセンターを開設し、越年期間中も歌舞伎町ハローワークにおいて入所受付が可能であったため、この対策を利用した仲間が数多くいまし

た。

このいわゆる「公設派遣村」については、対策の趣旨が不明確であること、国と東京都の連携が不十分で現場が混乱していたこと、入所者の1月4日以降の処遇が明らかになっていなかったこと等の問題点があり、連絡会としては連日発行している仲間向けのチラシで入所受付に関する広報を行いませんでした。

しかし、パトロール班としては、「仲間のいのちを守るために、排除とセットではない対策であるならば、どのような対策であろうと活用しつつくす」のが連絡会の伝統であると考え、独自に入所方法に関する広報を実施しました。仲間には「最低限、1週間のみの宿泊になるかもしれない」ということを伝えながら情報提供をおこないました。

その結果、新宿地域から百数十人がオリンピックセンターに入所しました。その影響もあり、各地域のパトロールで出会った人数も減少もしくは横ばいになりました。また、パトロールで出す市販薬の数も例年より少なく、パトロール中に救急搬送を要請することはありませんでした。これは温暖な気候に加えて、対策の影響も

あったのではないかと思います。

越年後の1月中旬には寒気が到来しましたが、幸い、今までのところ暖冬傾向にあり、パトロールで重症の人の何人も出会う、という事態にはなっていません。ですが、気を緩めずに引き続き、いのちを守ることを最優先にした活動を続けたいと思っています。

* 越年期パトロール記録

日付	時間帯	中央公園	西口	東口	北口	高田馬場	4号街路	地下広場	平均合計
12/27	20時～	135	61	59					
12/29	20時～		47	44					
	23時～						69	84	
12/30	20時～				23	126			
1/1	20時～	161	33						
	23時～						54	76	
1/2	20時～			49		90			
	23時～						55	77	
1/3	20時～		62		29				
平均		148	51	51	26	108	60	79	523
前年度平均		121	67	70	39	98	90	70	555

※各回のパトロールで出会った人数です。20時からの第一次パトロールと23時からの第二次パトロールでは重複してカウントした人もいるため、「平均合計」はあくまで参考値です。

越

年期集中活動・医療班報告

新宿連絡会医療班 大脇甲哉／入野真規子

活動期間：2009 年 12 月 29 日から
2010 年 1 月 4 日まで 7 日間

活動場所：新宿中央公園水の広場（12 月 29 日-
1 月 4 日）及び戸山公園（1 月 3 日）

活動内容：医療テントを設置し、医療職ボランティアによる昼夜 2 交代体制での 24 時間対応活動、衰弱者の保護、血圧計測、処置、医療・歯科相談、市販薬提供、施設緊急入所付添、重症者の救急搬送時の添乗、福祉生活相談、集中医療相談・鍼灸あんま相談（12/30、1/3）、福祉事務所への付添（1/4）

ボランティア 55 名：医師 14、歯科医師 1、看護職 15、薬剤師 1、医療系学生 1、鍼灸師・学生 18、一般 4

<医療テント相談活動>

〔注〕（ ）内は 08-09 越年期の数

医療相談記録作成者数

49 名 (80) 男性 48 (77)・女性 1 (3)

平均年齢：55.8 歳 (54.7)、最低 36 歳 (21)、最高 71 歳 (77)

年齢分布：20 代 0 (4)、30 代 4 (7)、40 代 6 (18)、50 代 22 (17)、60 代 15 (23)、70 代 1 (10) 20-39 歳 8.3% (14%)、40-64 歳 72.9% (61%)、65 歳以上 18.8% (25%)

医療テント宿泊保護者数 7 名 (16)

延べ数 16 (40) (人X日数)

- ①38 歳男 悪寒・食欲不振・低体温：保温・食事提供、翌日派遣村受付のためハローワークに
- ②67 歳男 咳嗽・アルコール依存：1/4 受診、施設入所
- ③61 歳男 全身落屑性皮膚炎・下腿蜂窩織炎：毎日温浴・軟膏処置、1/5 受診、施設入所
- ④52 歳男 慢性貧血：翌日緊急枠施設入所、1/4

受診、施設入所継続

- ⑤63 歳男 高血圧・四肢浮腫：福祉利用希望せず
- ⑥51 歳女 適応障害：1/5 受診
- ⑦55 歳男 鎖骨骨折術後固定金属露出：1/4 受診、金属抜去

救急搬送 2 件 (8)

入院：1 (肝硬変、著明浮腫・腹水 戸山公園
医療相談から搬送)

縫合：1 (頭部裂創 縫合後テントで処置継続)

市販薬提供 延べ数 389 名 (678)

感冒薬 216 (383)、胃薬 86 (122)、カイロ 49 (241)、湿布 45 (52)、絆創膏・ガーゼ 40 (64)、マスク 37 (135)、鎮痛薬 32 (15)、整腸・止瀉薬 20 (30)、鎮痒薬 16 (31)、ひび割れ 4 (40)、抗白癬薬 3 (9)

<越年活動結果>

紹介状枚数 24 (44)

医療機関受診 16 名 (22)

越年期間中緊急受診 2 (8)

福祉対応後受診 15 (14)

入院治療 1 名 (7)

越年期間中緊急入院 1 (4)

福祉対応後入院 0 (3)

宿泊施設入所 4 名 (10)

越年期間緊急枠入所 1 名 (3)

新宿以外の福祉へ 4 名

ハローワーク紹介（公設派遣村へ）4 名

生活保護受給している人の相談 10 名



稲葉 剛

年明け最初の福祉行動（新宿区福祉事務所への相談同行）は、穏やかだった越年を象徴して、計 9 名にとどまりました。越年明けの福祉行動の人数としては過去最少です（去年は 18 名）。

以下がその詳細になります。

計 9 名（全員男性で紹介状あり）

- 67 歳 アルコール依存症、肝硬変 30 日～医療
テント泊
新大久保寮入所、5 日に井の頭病院受診、
依存症専門施設をあたる。
- 61 歳 四肢皮疹、歩行困難 30 日～医療テント泊

やまて寮入所、5 日に受診。

- 52 歳 貧血疑い 31 日医療テント泊、1 日新大
久保寮入所
医療センター受診、5 日検査。新大久保
寮継続
- 53 歳 高血圧 医療センター受診、あさぎり
荘入所。
- 65 歳 左下腿疼痛 東京医大病院受診
- 55 歳 全身かゆみ、発疹 東京医大病院受診
- 55 歳 左鎖骨 K ワイヤ露出 社会保険中央病院
受診、当日抜いてもらう。
- 58 歳 両下腿腫脹 社会保険中央病院受診
- 69 歳 帰省費用の相談、義歯作成 九州までの

みんなで越そう

本日から第16次新宿越年越えの取組み、新宿中
央公園「水の広場」を拠点にしながら1月4日朝まで展開

新宿区福祉事務所、生活・就労支援を求め
連絡会議 2009年12月27日
実施 NO.223

新宿連絡会

新宿区高田馬場2-6-10-106NPO新宿支社 090-3818-3450
www.tokyohomeless.com

みんなの力で

中央公園「水の広場」に仲間の越年拠点が出来上が
り、炊き出しは明日から昼、夜配食体制となるのでお間違いない

新宿区福祉事務所、生活・就労支援を求め
連絡会議 2009年12月28日
実施 NO.224

新宿連絡会

新宿区高田馬場2-6-10-106NPO新宿支社 090-3818-3450
www.tokyohomeless.com

すべては路上から

本日夜から中央公園「水の広場」越年
24時間で稼働開始！親子の悪い仲間は3

新宿区福祉事務所、生活・就労支援を求め
連絡会議 2009年12月29日
実施 NO.225

新宿連絡会

新宿区高田馬場2-6-10-106NPO新宿支社 090-3818-3450
www.tokyohomeless.com

越年期のチラシ

終わり良ければ

中央公園を拠点に越年の取り組み順調に展開中。
明日の大晦日イベントをお楽しみに！

新宿区福祉事務所、生活・就労支援を求め
連絡会議 2009年12月30日
実施 NO.226

新宿連絡会

新宿区高田馬場2-6-10-106NPO新宿支社 090-3818-3450
www.tokyohomeless.com

生きて奴らに

この一年、どうもお疲れさま、そしてどうもあり
不況の2009年から、どうなることが201

新宿区福祉事務所、生活・就労支援を求め
連絡会議 2009年12月31日
実施 NO.227

新宿連絡会

新宿区高田馬場2-6-10-106NPO新宿支社 090-3818-3450
www.tokyohomeless.com

謹賀新年

新宿区福祉事務所、生活・就労支援を求め
連絡会議 2010年1月1日
実施 NO.1

新宿連絡会

新宿区高田馬場2-6-10-106NPO新宿支社 090-3818-3450
www.tokyohomeless.com

暖かい新宿

第16次新宿越年本日も終了。医療テントで「紹介
仲間は、明日以降、福祉から病院へとシッ

新宿区福祉事務所、生活・就労支援を求め
連絡会議 2010年1月2日
実施 NO.2

新宿連絡会

新宿区高田馬場2-6-10-106NPO新宿支社 090-3818-3450
www.tokyohomeless.com

初心忘れず

明日は戸山公園、中央公園で医療相談会を開催。中央公園の方
では鍼灸治療会もあるので、疲れた時にお越しください。

新宿区福祉事務所、生活・就労支援を求め
連絡会議 2010年1月3日
実施 NO.2

新宿連絡会

新宿区高田馬場2-6-10-106NPO新宿支社 090-3818-3450
www.tokyohomeless.com

2009/12/27～2010/1/3越年炊き出し実数表 新宿中央公園「水の広場」

月日	12月27日	12月28日	12月29日	12月30日	12月31日	1月1日	1月2日	1月3日
曜日	日	月	火	水	木	金	土	日
天候	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ
新宿昼の炊き出し実数		502	256	295	336	234	318	325
新宿夜の炊き出し実数	440	360	360	397	360	304	330	388
参考(池袋昼)			110	90	124	140	80	80
参考(池袋夜)			179	141	173	216	180	185

* 池袋の炊出しと新宿の炊出しは昼夜共同時刻に実施のため重複はあり得ない。

池袋+新宿合計(昼)			366	385	460	374	398	405
池袋+新宿合計(夜)			539	538	533	520	510	573

特記事項	東京都「総合相談」28日-1/4日 受付	屋はアントニオ 猪木氏の炊き出 し	山谷なぎさ寮受 付 500名規模 池袋、渋谷など 越年炊き出しス タート	中央教会宿泊	夜から朝にかけ 初売り並びあり (50名規模以上)			
------	-------------------------	-------------------------	---	--------	---------------------------------	--	--	--

	述べ人数	平均	対前年度比		述べ人数	平均	対前年度比
新宿昼の炊き出し実数	2,266	324	プラス32	池袋+新宿合計(昼)	2,388	398	▲ 58
新宿夜の炊き出し実数	2,939	367	▲ 16	池袋+新宿合計(夜)	3,213	536	▲ 93

09-10越年深夜パトロール記録（概数調査）

	12月29日	12月30日	1月1日	1月2日	平均値
都庁周辺	22			25	23.5
西口地上	47			62	54.5
西口地下広場	104			109	106.5
4号街路北	26			33	29.5
4号街路南	61			51	56
明治通り		6			6
戸山公園スポセン周辺		71		73	72
諏訪公園		7			7
高田馬場駅周辺		2			2
神田川		2			2
戸山公園箱根山地区		11			11
職安通り		3			3
マイシティ			11		
アルタ前			6		
靖国通			12		
四季の道			4		
新宿3丁目			2		
新宿御苑			10		
東口			45	49	47
甲州街道			3		3
新南口			1	3	2
江戸川公園*				6	6
音羽公園*				29	29
高速5号線下*				3	3
飯田橋駅周辺				4	4
中央公園				131	131
計	260	102	94	578	598

*それぞれの調査は午後11時～午前3時の間*天候はいずれも晴れ

*駅周辺部分は終電後に調査

炊き出し実数については、新宿地域は昨年同時期と比べて大きな変化はなかったが、池袋地域など周辺地域は明らかに減少をしている。逆に言えば新宿地域に集中してしまったとも言える。



昨年同時期の新宿区内概数の推定は674名であったが、本年の調査数から区外の江戸川、音羽、高速5号線を除けば560名。これに深夜パトロール未調査の北口39名、戸山公園スポセン周辺以外の70名（それぞれ通常パトロール概数）を加えると669名と前年度区内概数よりマイナス5名でほぼ同数である。区内の路上生活者概数数値はほぼ変化がない事が伺える。

新宿連絡会

2009年11月～2010年1月会計報告

越年の取組みへの寄付大変助かりました。越年期の大きな出費を賄う事もでき、本当にありがとうございました。

新宿連絡会はすべて民間の支援で運営されています。集まったお金はすべて仲間のために使い切ります。引き続きのご協力宜しくお願いします。

収入)		支出)	
炊出部門寄付	174,133	炊出し事業費	370,838
活動部門寄付	0	諸活動費	30,796
越年越冬部門寄付	3,009,207	越年越冬事業費	1,764,018
その他寄付	281,084	池袋支援費	120,000
前繰越金	740,359	事務用品費	77,902
		旅費	28,550
		通信費	63,770
		消耗品費	28,854
		車両費	33,781
		事務所費	690,000
		支払手数料	12,440
		会議費	10,000
		諸雑費	13,220
		次期繰越金	960,614
合計)	4,204,783	合計)	4,204,783

衣類、物品の寄付 ありがとうございます。
春ものの衣類などは3月から募集再開です。

第16次新宿越年越冬への衣類等の寄付誠にありがとうございました。おかげさまで多くの仲間がこの冬は防寒着、毛布類には困る事なく、また全国からの支えがある事が実感でき、感謝感激です。

今後の衣類の寄付は下着類、靴下類、Tシャツなど上着、ズボン、春秋ものの薄手の上着類を中心に募集が3月15日より募集を再開します。また、引き続きお米、お米券、テレホンカード（使用可能なもの）、はがき、切手類なども募集をしていきます。今後とも路上の仲間がこの街で生き、そしてこの街から羽ばたくための様々なご支援を宜しくお願い致します。不明な点はどうぞ、お電話、メール等でお気軽にお問い合わせ下さい。



ボランティア募集中!

新宿炊出し（準備・片付け）

毎週日曜 午後6時より7時半

ところ 新宿中央公園「水の広場」

*3月から炊き出しの場所が変わります。パトロール（夜回り）

池袋炊出し（準備・片付け）

第2、第4土曜 午後5時より7時

ところ 東池袋中央公園

医療相談会

第2日曜 午後7時より8時半

ところ 新宿中央公園「水の広場」

第2日曜 午前10時より正午

ところ 戸山公園

新宿駅周辺 毎日曜 午後7時半～

戸山公園 毎水曜 午後6時～

●活動カンパ

振込は、郵便振替口座00160-6-190947「新宿連絡会」まで。

オンラインカンパは、<http://www.giveone.net/>「Give One（ギブワン）」（登録NPOを探すをクリックし新宿連絡会を見つけて下さい。）からだとジャパンネット銀行、クレジットカードで寄付が可能です。

●郵便物及びカンパ物品送付先は以下の住所にお願いします●

★郵便物及び衣類、医薬品、米などのカンパ物品は

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場2-6-10関ビル106号 新宿連絡会 宛て

（平日9時～5時で受取が可能です）をお願いします。